

平成 25 年度第 3 回企業向け人権啓発講座

「より豊かな人間関係を育む人権文化の構築を目指して～想像して気付く現状と課題～」

福田 弘（山梨県立大学特任教授・筑波大学名誉教授）

○福田 こんにちは。御紹介いただいた福田です。今日のテーマである「人権文化をどう構築するか」という問題は、日本だけでなく、国際社会にとっても大きな共通問題です。

「20 世紀は戦争の世紀であった」と言われるように、大変不幸なことが多い 100 年間でした。やっと 1989 年にベルリンの壁が崩壊し、いわゆる東西冷戦の構造が終結しましたが、その後も民族紛争、宗教戦争など、あつてはならない紛争が次々と勃発しています。こうした人類存亡に関わる危機的状況の解決のためには人類社会を挙げて人権教育の推進に取り組む必要があるとし、国連は 1995 年から 2004 年までを「人権教育のための国連 10 年」と定め、人権教育の推進事業に取り組みました。

その際の人権教育の定義に出てくるのが「人権文化の構築」という表現で、英文テキストでは「culture for Human rights」です。「人権文化」とは、砕いて言いますと、人類の最も小さな集団である家族からはじまって、地域社会、国、国際社会にまで至る様々な層のいずれの段階においても、一人一人の人が例外なく、個人として尊重され、また個人同士が互いに尊重し合っている、それが当たり前のことになっている状態を指します。このような人権文化を構築するためにはどんな能力や資質が必要なのか、それらはどうすれば育成できるのか、という具体的な教育や研修の在り方について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

その場合、講義様式で私が一方的に話し、皆さんには聞き手になっていただく、というのではうまくいきません。皆さんに主体的に参加していただき、グループ活動等で協力しながら学習を進めていただくことが不可欠です。それぞれ御自分の意見を自由に発表し、他の方の意見についても質疑を行ったり、グループ活動に協力しながら参加していただきたいと思います。

ところで「参加する」という言葉は、例えば「オリンピックは参加することに意義がある」という具合に、かなり軽い意味で使われています。しかし、日本語ではなかなか分かりにくいのですが、例えば英語では「take part in ～」と表現するように、ある有意義な事柄の重要な部分とか役割を自らの意思行為として責任を持って主体的に「引き受ける」ことを意味します。

これから共同学習を進めていきますが、どうぞ心を開いて、学習活動に主体的に参加し、協力しながら共同学習を進めてください。その際の約束事がいくつかあります。誰もが対等な学習者として尊重し合い、他者を傷付けるような言動は取らない、そして自分の意見は自由に発言し、質疑をすると同時に、他者が発言するときには、耳と心を傾けてしっかり聴く、つまり傾聴する。そのためにも、グループにおいてであれ、全体会においてであれ、発言できるのは一時に一人だけ、他の人はきちんと発言者に耳

を傾ける。これらが約束事です。

では、始めましょう。

皆さんのお手元に小さな白紙がありますね。それに、「今、あなた自身が、こんなものが欲しいな、こんなことがあったらな、こんな状況が欲しいな、と思う事柄を、心に浮かぶままに、10個から20個書いてください。」

(作業)

○福田 よろしいでしょうか。では次に、今御自分で書いたものを、今の御自分にとっての必要性とか重要性という観点から見直してみて、必要性、重要性からみた優先順位の高いものを3個だけ残して、他のものは全て2本線で消してください。

(作業)

○福田 3個に絞っていただきましたね。それでは、各グループの中で、それぞれ御自分が残した3個のものを、順番に発表し合ってください。先ほどの「一時に話せるのは一人だけ、他の人は傾聴する」というルールに従って進めてください。ではどうぞ。

(グループ作業)

○福田 それでは、次のステップに移ります。今度はそれぞれのグループ内での共同作業になります。課題は、「誰であれ、人が人間にふさわしい生活をするうえでどうしても必要不可欠なもの・こと・状況について話し合い、グループの全員が必要不可欠であると合意できた「もの・こと・状況」を一覧表にする」というものです。先ほど発表し合った事柄も含めて、広く一般的な視点から議論してください。各グループで初めに書記を決めておき、記録しておいてください。ではどうぞ始めてください。

(グループ作業)

○福田 ではここまでにします。次に、各グループの書記の方は一覧表の内容をホワイトボードに書いてください。その後、順にその内容について簡単に発表していただきますので、全員で傾聴してください。

(書記によるホワイトボードへの転記と説明)

○福田 さて、5つのステップからなる一連の活動を皆さんにやっていただきました。それぞれのステップを振り返ってみましょう。

最初に、「今のあなたが欲しいと思うもの・こと・状況」を思いつくままに書いていただきましたが、これは簡単にできましたか？

○会場 難しかったです。

○福田 どんなところが難しかったのですか？

○会場 最初は思いついたものを書きましたが、10個となるとなかなか思い浮かばなかったです。

○福田 なるほど。他にも難しいなと思った人はいますか？

.....

次に第2ステップを振り返っていただきます。ここでは、御自分が思いつくままに書いたものを、理性を働かせて自分にとっての重要性・必要性という観点から優先順位の高いもの3個に絞っていただきました。これは比較的容易だったのではないのでしょうか？

次の第3ステップでは、それぞれが残した3個の中身をグループ内で順番に発表し合っていたきました。いわゆるシェアリング、分かち合いですね。この作業を進めるときに思ったこと、気付いたことありましたか？

○会場 グループの中で全く同じことを書かれている方がいました。あと、休暇が欲しいという方がおられましたが、この方はお仕事に恵まれているんだなあ、と感じました。

○福田 なるほど。自分が挙げたものと同じものを挙げている人がいたときにはどんな感じがしましたか？

○会場 私は、自分より先に発表した方の意見に自分が残したものが入ってなかったので、少し発表することに抵抗感がありました。言ってもいいのかなという不安というか。でも、発表後にみんなが同意してくださったので、すごく安心しました。

○会場 年代によって、欲しいものが変わってくるのではないかと言うことを感じました。今、一番大事に思っているのは平和、平穏な生活を侵されないということですが、私自身が40歳代の頃だったら、また別な考えが出ていたと思います。

○福田 他にいかがですか？ 共通のことが出たときにおそらく安心感が得られ、また、違うものが出たときには、不安も感じることもあれば、発見もあるのではないかと思いますね。以上の、第1ステップと第2ステップは全くの個人作業でした。第3ステップはその結果であるそれぞれの個人的な思いや願いを分かち合うという共同作業でした。

ところで第4ステップは、グループとして共通の課題を協力して追究する作業でしたね。その課題とは、「誰であれ、人という存在が、人間らしく生きるために必要不可欠だと思われるもの・こと・状況について話し合い、全員が合意できた事柄を一覧表にする」というものでした。必要なものとか重要なものの中身はそれぞれ人によって異なる可能性があります、誰にとっても必要不可欠であるといえるような、一般的、普遍的な内容について共同して探究するという作業です。この作業をするときに、どんなことがありましたか？ 議論になったことはありましたか？ コンセンサスを得ることは容易でしたか？

○会場 コンセンサスを得るのは難しくはなかったです。皆さん同じような目線を持っておられたのかもしれないですけども。人となりとか、共感の部分とか。みんなで「そうそう」と言いながら進んでい

きました。

.....

○福田 第5ステップでは、各グループで討議し、合意できた内容をそれぞれ発表していただきました。他のグループの発表を聞いたり、白板上の記録を見たりして、自分たちのグループの発表内容と比較してみた訳ですが、それを踏まえて、思ったこと、感じたこと、発見したことがありますか？もしあれば遠慮しないで挙手してください。

.....

○福田 では、今やったアクティビティを通して何を探究しようとしたのかについて、ここでまとめておきたいと思います。もうお気づきかと思いますが、このアクティビティの目的は、人権というものの本質を自分の感性や理性を働かせながら共同作業を通じて探究する、ということでした。

まず第1ステップでは、今現在の自分の内面を振り返り、自分はどんな「もの・こと・状況」を欲しいと感じ、願っているかを探り、自由に書いていただきました。そこで書き出された事柄は、まとめて言えば、「あなた自身にとっての欲しいもの」、英語で表現すれば“wants”なのですね。複数形であることを示す“s”がついていることに注意してください。要するに、「こんなもの」、「あんなもの」、というように、指折り数えられるような、具体的な様々なものなのです。抽象的なもの、例えば「愛情」のようなものでも、指折り数えられますから、一つの具体的な内容に含まれます。

なお、“want”という言葉は本来、「欠乏」を意味します。「欠乏」しているからこそ、「欲しい」と思うわけですね。このことも確認しておきましょう。とにかく、自分の欲求や要求や思いという、いわば感性的、感情的なところで浮かび上がってくるものが主として挙げられることになります。

次の第2ステップでは、「欲しいもの(wants)」の中から、「必要性・重要性の高いもの(needs)」を選び出したことになります。ここでは知性や理性を働かせて、感性的・感情的に挙げられたものを検討し、選択することになります。その選択を経て残されたものの中身は、今のあなたにとって「必要なもの(needs)」なのですね。この「必要なもの」にも具体性があるので複数形で表されます。つまり、指折り数えられる、抽象的なものも含めた具体的なものの集合になります。

次いで第3ステップでは、それぞれにとって「今現在、必要性、重要性の観点で見て優先順位の高いもの」、つまり、自分にとって「必要なもの(needs)」を発表し合ったわけですね。それぞれの「欲しいもの」の中には個人的で、「私の秘めたる願い」のようなものが当然含まれますので、これをいきなり他者に発表することには抵抗感があって当然です。しかし、理性を働かせて選択した中身である「必要なもの(needs)」については、他者に知られても問題ないどころか、むしろ知ってもらいたいことでもあり得ます。そこで、それぞれ自分にとっての「必要なもの」を発表し合い、分かち合いをしていただきました。

このような分かち合いは、相互理解を深め、人間同士として共に生きるために必要な知性や感性を培い、互いの意思疎通のためのコミュニケーション能力を高めることにも寄与します。

第4ステップでは、自分も含む全ての人が、人間らしい生活をするために必要不可欠な「もの・こと・状況」とは何かについて、グループ内で協力しながら探究しました。誰にとっても例外なく、人間らしい生活のための「必要不可欠なもの・こと・状況」の具体的な中身とは、実は人権というものの本質と重なるものなのですね。ですから、第4ステップで皆さんは、自前で人権とは何かという問題の探究をしたことになるのです。

第5ステップでは、それぞれのグループがまとめた一覧表を比較してみました。これを通して誰にとっても人間らしい生活をするうえで必要不可欠な「もの・こと・状況」の中身を共同でより厳密に探究するためです。

今日は時間の都合もあるのでここまでで一応終わらせたのですが、本当はお配りしてある講義用レジュメに掲載してある「世界人権宣言」の内容項目と、それぞれのグループの一覧表の中身を比較するプロセスを設けることが必要なのです。そのようにして、人権とは自分にとってどのようなものなのかをきちんと知的に理解し、その価値と重要性を知ったうえで、本気で大切にし、誰にとっても人権が実現することを願い、そのために努力することにつなげることが目的です。

ところで「人権」と漢字で表すと、単数形であるのか複数形であるのかははっきりしませんね。でもヨーロッパ語では、例えば英語では“human rights”というように、必ず権利の部分が複数形になっています。つまり、人権は具体的な権利や自由から成るのです。ですから、人権を守るには、それがどのようなものであるか、どうすれば守れるか、ということについて頭を使って理解しなければなりません。そういう知的理解と、人権というものの価値を自分の価値として受け止め、尊重するというような価値や態度、さらにその価値が実現するために必要な様々な技能を身に着ける必要があります。

ところが、しばしば、人権を守るためには「思いやりの心」や「やさしい心」が大事だ、言われます。確かに「思いやり」や「やさしさ」はとても大切な人間的感情ですから、とても重要です。でも、「思いやりの心」や「やさしい心」があれば人権は守れる、とは言えないのです。

先ほど言いましたように、人権は指折り数えられるいくつもの具体的な権利や自由からなる単一的集合体を成すものです。誰かが自分の人権のどれか一つの要素であっても、もし否定されたり、踏みにじられたりしたら、その人は人間にふさわしい生活をするができなくなるのです。そんな状態を解決することが人権を守ることですから、「思いやりの心」や「やさしい心」でもって同情するだけでは不十分なのです。人権とは何か、それがなぜ必要なのか、それを守るにはどうすればよいのか、万一、それが侵害された場合にはどうすれば回復できるのか、という具体的な知識をしっかりと身に着けること、そしてそれを実行したいと願い、意志すること、そしてその実行に価値態度や知識を実際にいかすため

の様々な技能が必要なのです。そういう知識や情報、価値や態度、諸技能を総合的に育成することこそが、人権教育や人権啓発です。

先ほど皆さんに参加し、協力し、御自分の知性と感性と思いを働かせながら取り組んでいただいたアクティビティは私が工夫したもので、「欲しいもの、必要なもの、人権」と名付けています。企業内研修、教育委員会主催の各種人権教育指導者養成講座、等々で何十回となく実践してきましたが、人権とは何か、という基本的な学習に効果を上げているものです。研修指導者としてのお仕事の際に活用していただけるアクティビティだと思っています。

ここで改めてレジュメにもありますが、ナンシー・フラワー教授がやさしくまとめられた「人権の本質と特徴」を確認しておきましょう。

- ・人権は人間であるという理由だけで、誰もが持っている様々な権利です。
- ・人権は全ての人が平等に、普遍的に、つまり誰もが、いつでも、どこにいても、しかも生きている限り失うことなく、持っているものです。
- ・人権は、他者に譲り渡したり、権力や他者から奪い取られたりすることができないものです。誰でも、人間として生きている限り、決して人権を失うことはできないのです。
- ・人権はどの部分であっても、取り除くことができません。ある権利が、他の権利よりも「重要性が低い」とか、「本質的なものでない」とかの理由で否定されることはできないのです。
- ・人権を構成している権利や自由は、相互に関連し合っています。人権の一つ一つの権利や自由は、相補的な枠組みの一部を成しているのです。
- ・人権は人間が尊厳をもって生きることがするために不可欠な基本的基準です。
- ・人権を擁護するとは、全ての人の人間としての尊厳が尊重されることを要求することです。これらの人権を主張する人は、誰であっても、他の人々の様々な権利を侵害しない責任や、権利を乱用されたり、拒否された人々を支援する責任を同時に受け入れることを求められます。

ここまでの講座前半では「人権とは何か」ということを、アクティビティを中心に一緒に考えていただきました。ここで休憩に入りたいと思います。

(休憩中)

○福田 それでは、後半のアクティビティを行います。何も持たないでこちらに出てきて1列に並んでください。もしかしたらちょっと狭いかもしれませんが、できるだけ一直線になるように御協力ください。

それではしばらくの間、他の人と話をしないでください。この封筒の中に、折り曲げて糊付けしてある小さな紙が入っています。順に1枚ずつ取って、隣の人に封筒を渡してください。紙は開けないまま持っていてくださいね。

どなたも取りましたか？ それでは、黙ったまま、紙を広げていただきますが、それぞれ自分だけで見て、他の人には見せないでください。紙にはある一人の人物のことを書いてあります。それをよく読んで、自分の想像力を働かせて、その人になりきるように努力してください。

これからいくつかの質問をしますので、それに心の中で答えながら、紙に書かれている人の立場に御自身を重ねるようにしてください。

あなたは子ども時代をどのように過ごしましたか？

どんな家に住んでいましたか？

あなたは、どんな遊びをしましたか？

あなたの両親は、どんな仕事をしていましたか？

現在のあなたは、どんな日常生活をしていますか？

どんなところで社会的な活動に参加していますか？

あなたは、午前中にはどんなことをしていますか？ 午後にはどうですか？ 晩にはどうですか？

あなたの生活習慣は、どんなものですか？

あなたは今どこに住んでいますか？

月に収入はどれぐらいありますか？

暇なときは何をしますか？ 休日はどう過ごしますか？

あなたがわくわくするのはどんなときですか？

どんなことが気掛かりになっていますか？

はい、それでは、これから20個ぐらい文章を読みます。その人になりきったあなたが、その文の内容に「はい」と肯定的に答えられる場合には、軽く一歩前へ進んでください。「はい」と答えられない内容でしたら、そのまま動かないでその場に留まってください。ルールはそれだけです。

それでは、始めます。

あなたは、これまで一度も深刻な財政的困難に直面したことはありません。

「はい」と言える人だけ軽く前へ一歩前に進んでください。

「はい」と言えない場合は、そのまま留まってください。続けます。

あなたは、電話とテレビのある立派な住まいを持っています。

あなたは、自分の住んでいる社会の中で自分の言語や宗教や文化が尊重されているなど感じています。

あなたは、社会的・政治的な問題についてのあなたの意見が重要なものであって、あなたの意見には人々が一目を置いていると感じています。他の人々は、様々な問題についてあなたに意見を求めます。

あなたは、警察官に呼び止められることを恐れません。

あなたは、助言や手助けが必要なときにどうすれば良いか知っています。

あなたは、自分の素性を理由に差別されていると感じたことはありません。

あなたは、自分のニーズにかなう適切な社会的・医療的保護を受けています。

あなたは、年に1度は休みの日にどこかへ出掛けることができます。

あなたは、友達を自宅での夕食に招待することができます。

あなたは、楽しい生活をしており、あなたの未来について肯定的です。

あなたは、学習することができて、自分の好きな職業に就けると感じています。

あなたは、街角で、あるいはメディアによって、嫌がらせを受けたり攻撃されたりしないだろうかなどと心配していません。

あなたは、国や地方の選挙に投票することができます。

あなたは、身内の人々や親しい友人と一緒に、最も重要な宗教的なお祭りを祝うことができます。

あなたは、外国での国際的なセミナーに参加することができます。

あなたは、少なくとも週に1回は、映画館か劇場へ行こうと思えば行けます。

あなたは、自分の子どもの将来を心配していません。

あなたは、少なくとも3箇月に1度は新しい洋服を買うことができます。

あなたは、自分で選んだ人と恋愛することができます。

あなたは、自分の住んでいる社会で、自分の能力が正しく評価され、尊重されていると感じています。

あなたは、インターネットを使うことによって利益を得ることができます。

はい、ここまでにしましょう。それでは、周りを見渡して、今あなたが立っている場所を、確認してください。よろしいですか。

はい、終わります。どうぞ役から抜け出して、本来のあなたに戻ってください。

では、椅子だけ持って全員が車座になってください。全員がお互いの顔を見ることができるように。位置を調節してください。

それではこれから共同作業をしますが、それぞれ自分の役割が書かれている紙はそのまま持っていて

ください。また、他の人には見せないでください。

私が色々問い掛けをしますので、思ったこと、感じたことを遠慮なしに発言してください。

まず、このアクティビティをやってみて、どんな感じがしましたか？ どなたでもどうぞ、発言をお願いします。

○会場 自分の位置よりも遠くまで進めた人は、恵まれた人やな、と思いました。

○福田 なるほど。あなたの実感として、率直に浮かんだ気持ちだと思います。他にどうですか。

○会場 自分が前に出てうれしいという気がしましたが、他の方が出ないと、自分では当たり前に進んでいることが他の方はできないんだと思い、どんな状況なんだろうなという疑問が起きました。

○福田 なるほど。

それでは、前に進めないときには、どんな感じがしましたか？

○会場 結局、一步も前に進めませんでした。取り残されたという非常に孤独な感じがして、前に行く方を見て、おいおいおいという感じがしました。

○福田 なるほどね。他にいかがですか。留まらざるを得なかった場面では、どんな気持ちになりましたか。他にいかがですか？

○会場 私も一步も出られませんでした。全ての質問が自分の世界にはないように感じました。3問目ぐらいから、多分これからも進めないのだろうなという風にもう悲観的な気持ちになってしまいました。

○福田 なるほど。他にいかがですか？

○会場 私は2歩ほど進みました。与えられた役は、正直そんなに良い環境にいない人でした。でも、自分以上に悪いと思われる方々がたくさんおられたなと感じますし、自分が底辺ではないんだと思いました。なので、悪い環境に置かれているのは自分だけじゃないという感覚になりました。

○福田 はい。他に手を挙げられた方。どうぞ。

○会場 ほとんど前へ進めませんでした。なので、ほんの少しでしたが、前へ進めたときは、小さな幸せみたいなものを感じました。

○福田 はい、どうぞ。

○会場 私は、真ん中辺りまで進みました。当たり前のようにすすい進める場合と、躊躇する場合があって、その時は、不安とか、複雑な感じを受けました。当たり前のこととそうでないことに線がスパッと引かれた印象を受けました。

○福田 なるほど。結構順調に進んでいかれた方が何人かおられましたね。そういう方は、進めない人がいるということに、どの辺りで気付いたでしょう？

○会場 私は、1番先頭で、隣の方も同じように進んでおられたので気付きませんでした。終わってから周りを見たときに初めて気付きました。

○福田 なるほど。他にいかがですか？

20 個ぐらい質問を読みました。前に進めなかった時に、自分の基本的人権が踏みにじられているんじゃないか、と感じた場面はありましたか？

○会場 私の場合は、何か行動するたびに人の助けを借りる必要があるというような役柄の設定でしたので、今言われましたように、基本的人権と考えると動けるはずですが、先ほどのアクティビティのなかでは、自分がこれをやったら家族に迷惑を掛けるのではないかと、色々な面で人の協力があってここまで来れた、というイメージを持っていたので、権利を主張するのも、周りの協力があってとなりますと、自分の権利ばかりを主張しても良いものなのかという気持ちが入り込んだりしました。できるはずだけれども、誰かに迷惑を掛けるというか、誰かのフォローがいる。そういう感覚では、自分で我慢して留まっても構わないという気持ちが出て、前へ行けなかったというような感じがしました。

○福田 なるほど。他にありますか？

それでは、お互いにどんな人の役であるか、今この時点で想像できますか？ 例えば全然動けなかった方はどういう役だったのでしょうか？ あるいは、どんどん進めた人は、どういう役だったのでしょうか？

○会場 進めなかった人は、何らかのハンディキャップをお持ちの方かなと思います。物的なものとか詳しい中身までは分かりませんが、何らかのハンディキャップを持たざるを得ない人なのかなと思います。

○福田 他にどうでしょう？

○会場 警察におびえるというような質問があったと思ったので、進めなかった人の中に前科・前歴のある方がいるのかなという想像をしました。

○福田 なるほど。他にどうですか？ 逆はどうでしょう？ かなり順調に進んだ人たちの役柄は、どのようなものだと思いますか？

○会場 1 番進まれた人を見ていますと、全てのことに成功した人という風に見えました。財政的な部分も含めてですけど。会社の社長とか地位も名誉も全てを備えておられるような順風満帆な人生を送っておられるんだなという風に感じました。

○福田 なるほど、社長ですか。確かめてみましょうか。それではそちらの方、どうぞ紙に書かれてあることを読んでください。

○会場 「私は、現政権の青年団体の議長です。」

○福田 ほとんど想像どおりですかね。他にかなり進んだ方が、何人かおられましたね。順に読んでください。

○会場 私は、地域の銀行の支店長の娘で、大学で経済学を勉強している。成功者の下で庇護されてい

るええ娘さんなんかなあという風に自分で想像して、どんどん前へ行きました。

○会場 私の役柄は、75歳の男性で、76歳の認知症の妻と2人暮らしということでした。この認知症というのは、かなり私の勉強している部分なので、判断しやすく、かなり進める部分がありました。

○会場 実は私が社長です。「あなたは事業がうまくいっている貿易会社の社長です」という役をいただきましたので、洋服も3箇月ごとに新調でき、海外旅行もでき、自分の家でのパーティーを開き、友達を招けるという富裕層という風に感じました。

○福田 前に進めなかった項目はありましたか？

○会場 ありました。子どもの将来についての設問があったと思いますが、そこはちょっと逡巡しました。

○福田 それでは、全然動けなかった方の役割を明かしていただきましょう。

○会場 私は、「30歳の外国人労働者で、妻と2児の4人家族です。最近、解雇されました」というものでした。この時期に解雇されるというのは非常につらい状況ではないか、これからの生活が大変やな思いながら設問が出る度にだんだん暗くなってきました。

○会場 私は、30歳の男性難民です。

○会場 私は、「ホームレス状態の45歳の男性です」ということでした。ですので、どの設問に対しても肯定的な想像ができず、今も大変やし先の見通しもないということで、進める項目というのはなかったです。

○会場 私も、今の方と同じように45歳のホームレスの男性という役割です。一歩だけ動きました。選挙には、行こうと思えば行けるのかなということで、とりあえずそこで悩みながらも一歩だけ動きました。

○福田 なるほど。0か一歩ぐらいしか進めなかったという方、お願いします。

○会場 私も進むのは全く0で、私の役柄は「あなたは24歳の女性難民です」というものでした。

悩んだのは、難民認定を受けているのかどうかと分からないことと相談できる場所はあるのかなど、分からない部分が多くて、進んでいいのかどうか悩みました。

○会場 私も一歩も動けませんでした。私は、「17歳の少女で乳幼児期から児童養護施設で暮らしました。親は風俗店で働かせようと画策しています」という役柄でした。

○会場 一歩だけ動きました。「あなたは失業中、45歳の男性で妻と2人の子どもがいます」という役柄だったので、選挙だけは行けるのかなと思って、一歩先へ動きました。

○会場 一歩も動けませんでした。私の役柄は「あなたは刑期を終えて出所した32歳の女性です」ということでした。色々な設問がありましたが、仕事を探さなアカンけど苦勞するのではないか、住む所は確保しているのか、今まで意識したことがない課題を改めて思いつつ一歩も動けない状況でした。

○会場 私も一步も動けませんでした。「あなたはH I V陽性の外国人労働者です」という役柄で、正規の在留資格の有無までは指定がなかったので、警察を恐れて逃げたいとなるのか、ならないのか、悩みました。

○福田 もう他には0か一步ぐらいしか進めなかったという人はいないですね。それでは、発表された隣の方から、まだ役柄を明かしてないという方は、順におっしゃっていただいてよろしいですか。

○会場 私は、「移動に車椅子が必要な障害を持つ35歳の男性」です。今は、色々なフォローもしてもらえますので進めたところがありました。ただ、自身の気持ちとして色々な面で地域とか周りの人に対する迷惑を考えていたら、二の足を踏まざるを得ない部分ももしかしたらお持ちなのかなとか、悩む部分もありました。

○会場 私は、「あなたは天津波で家も家族も失い、仮設住宅で独り暮らしをしている45歳の男性です」という役柄でした。絶望的な状況やなあと私は思って全然動けませんでした。でも、恋愛することができるといような設問では、せめて前へ進まなあかんのかなというように感じて前へ進みました。

○会場 私の役柄は、「あなたは原発事故後、夫と別居して、小学生の娘と隣接県外に移住している40歳の女性です」ということでした。こういう状況は、マスコミ等による報道からの知識はありますが、実際にそういう場面の方々に直に接していませんので、マスコミ等の報道から自分が持つイメージで判断しました。

○会場 私は、「刑期を終えて出所した50歳の男性です」という役柄でした。3歩か4歩ぐらい前に進みました。仕事さえ見つければもう少し進めたのかなあと思いながら、意外と進めたなあというのが率直な感想です。

○会場 私は、「あなたは30代の男性で、派遣社員をしています」という役柄でした。今は、そんなに生活は苦しい状況ではないと思いますが、将来のことに関する設問では進むことができませんでした。

○会場 私は、「あなたは失業中のシングルマザーで3歳の子どもがいます」という設定でした。3歩か4歩ぐらいは前に進めました。質問の中で感じていたことは、能力もあり、本当は働きたい。でも、子どもの面倒を見ないといけないので、自分の思っていることができないという状況のため、進めないときは、すごく歯がゆいというか、そういう思いをしながらやっていました。

○会場 私は、「あなたは25歳の男性で、ある自動車メーカーの非正規社員です」という役柄でした。設問は半分ぐらい進みました。将来的には不安はあるものの、現状はそれなりの生活ができているのかなというように受止め方で進みました。

○会場 私は、「あなたは在日アメリカ合衆国大使の娘です」という役柄でした。具体的なイメージが出にくかったのですが、大使の娘ですから見栄えの良いイメージがありましたので、ほとんどの質問に進むことができました。

○会場 私は2～3歩動きました。「あなたは24歳の女性で、パートタイマーをしながら4歳の子どもを育てています」という設定でした。周りの人が動いているのに自分は進めないという状況に、すごいストレスを感じました。ただ、逆に一歩動けた瞬間、すごい幸せでした。

○会場 私は「あなたはスーパーマーケットで働く25歳の女性パートタイマーです」という役柄でした。イメージとしては、親元で一緒に住みながら地元のスーパーへパートタイマーに行っているという感じです。そんなに経済的に不自由はしてないんだろうけども、自分の能力を発揮できているかといったらそうじゃないのかなあと想像しながら進みました。3分の1ぐらい進みました。

○会場 私の役柄は、「あなたはファーストフード業がうまくいっている在日韓国人の息子で、22歳です」というものでした。半分以上進むことができたんですが、日本人ではないということで進むのに躊躇してしまう部分がありました。

○会場 先ほども出ましたが、「あなたは地域の銀行の支店長の娘です。大学で経済学を勉強しています」というのが私の役柄で、経済的にも多分恵まれているんだろうなあと思いまして半分以上進みました。

○会場 私は、「コンビニエンスストアの店長をしている24歳の男性です」という設定でした。ちょっとイメージが湧かなかったので、迷ったときは立ち止まってしまって結局、何歩か進んだだけでした。

○会場 私は「あなたは17歳の高校生です。父は派遣切りで失業中。母はコンビニのパートタイマーです」という役柄です。お父さんは派遣切りで失業中ということなんですが、元々はどこかで正規雇用されていたが、会社が倒産して、派遣に切り替わり、さらにそこも派遣切りにあったのかなという風にイメージしました。経済的には厳しい状況とは思いますが、学生なので勉強はできるし、恋愛の自由ぐらいはあるかなと思いました。ただ、イメージとしてだんだん生活のレベルが落ちてくるというところで、社会へのいらだちや反発感みたいなそういうものにつながるのかなという風に思いながらやっていました。

○会場 「あなたはニートの20代の男性です」ということで、選挙権のところだけで一歩進んで、後のところはなかなかイメージがつかず、止まりました。

○会場 私は、「あなたは小学6年生の男子で原発事故の後、遠く離れた県で、母と妹と暮らしています。父は別の町で働いています」という設定で、東北の震災のことの思いながらイメージ作りをして、2歩動きました。

○会場 「あなたは失職中の52歳の男性です」という役柄で、私自身は年齢が同じぐらいの同性なので、失職中かどうかという違いがあるだけでした。イメージ的には、進もうと思ったら進める質問もあったんですけど、自分に当てはめると進めないなあとというそんな質問が多くて、結局、進めたのは2歩でした。

○会場 私は「原発事故のため町やふるさとを失い、慣れない町で母親と2人暮らし」という役柄でした。進めないときは、自分の責任じゃない原因でこういう立場になったという思いがして、ストレスを感じました。

○会場 私は「小学6年生の男子で原発事故の後、遠く離れた県で母と妹と暮らしています。父は別な町で働いています」という役柄で、10歩ぐらい動きました。小学校6年生ということもあって、恋愛とか将来の希望に関する設問は、結構、楽観的に考えました。先ほどの発表された方と捉え方がだいぶ違うなという感じはします。

○福田 全員自分の役柄を明かされました？ それでは次に、ちょっと別な角度から考えてみましょう。御自分が引き当てた紙に書かれていた人物の役を演ずるのは容易でしたか？ それとも難しかったですか？ 容易だったという人はいますか？

○会場 私の場合は、両親の介護の経験があり、色々と認知症の人を介護する認知介護とかも勉強しているので判断しやすかったです。

○会場 私は、まず自分の責任じゃない原因で自分の状況が作られているということがあるので、この方の場合、多分そのことを1番に思って、役になりきりにくかったですが、そういうイメージで行動しました。

○会場 私は、17歳の高校生という役柄で、すごく先の展望というのは、色々な可能性を秘めていると思います。ただ、お父さんが派遣切りで失業とか、そういうところで今、置かれている現状をバネにするのか、悲観的に受け止めるかで、その答えがずいぶん変わってくるので、どちらを設定しようかなとちょっと迷いました。

○福田 なるほど。何人かの方が言及されていますけれど、皆さんどういう風にしてその役に入りましたか？ 演じるには自分と役柄のイメージと自分とを結ぶ必要がありますよね。まず、どのような情報や情報源を材料にイメージをされましたか？ そして、そのイメージを御自身と結ぶにはどのようにされましたか？

○会場 難民の役でしたが、どうしてもテレビとかマスコミの報道を材料にイメージしました。特に戦争での難民というのをちょっとイメージして、将来に希望が持てないような、日々どうやって食べていくかということぐらいしか考えることができないような状況に自分を追い込んだので、マスコミの報道だけですが、すごく悲観的なことしか考えられなかったです。

○福田 マスコミは一つの情報源ですね。ただ、マスコミにも新聞、テレビ、ラジオなど、様々なものがあります。内容も多様です。情報が想像力を働かせる基礎的要素となる訳ですから、その情報源の質や信頼性が重要になります。新聞の場合ですと、原発事故関連の記事にしても各社によって情報の取上げ方や表現がずいぶん違ってきます。テレビでもそうですよね。報道の仕方や報道内容の切り取り方など

は情報提供側に違いがある訳ですから、情報の受け手の側の内容を見極める能力や技能、そしてその問題が内包する人権問題についての価値・態度が問われることになります。

そういう意味で、こういうアクティビティで役柄を演じるということを通して、自分はどのような情報に基づいて当該人物のイメージを描いたか、その情報は確かなものであったか、等を再検証することも問い掛けられている訳です。

さて、今日は皆さんに 30 数人の人々の役割を演じていただきました。そのそれぞれの中身を発表していただいた訳ですが、それらの人物は現代の日本の社会の現実性を表していると思いますか？ それとも、架空の人物像だと思いますか？ 御自分が受け持った役割の人の立場を、人権尊重という視点から改めて見たときに、人権のどの部分がその人にとって危うくされているのだろうか、改めて是非お考えください。

先ほど一緒に確認した“human rights”の”s”の意味を私たちがどの程度まで本当に理解しているかの程度によって、その人の場合には人権の中のどういう部分が危機に瀕しているかということの見え方が変わってきます。

さて、先ほど人権とは何かということを目前まで探求し、一覧表にさせていただきました。その探究は、70 年ほど前に英知を集めて「世界人権宣言」を起草した当時の法律専門家たちの営みと相通じるものがあります。現在の私たちは、この「世界人権宣言」及びその内容を国際条約にした様々な人権関連国際条約の恩恵の下で生きています。そしてそうした人権思想を共有する「日本国憲法」の下で、基本的人権を保障されています。

ところがこの憲法を改正する動きがあります。国民主権(主権在民)、基本的人権の保障、恒久平和の追求を三本柱とする世界でもまれな素晴らしい憲法が、危うい状態に置かれています。この憲法そのものの内容をきちんと読んで理解し、自分自身と家族や友人たちをはじめとする国民にとって何をどう保障しているのかを理解せずに、改正すべきかどうか分かるはずがありません。憲法の何が、どこが、どのように変えられようとしているのか、それを自分はどう考えるのか、ということが問われています。国民主権・基本的人権の保障・恒久平和の追求という原則は、普遍的な人権文化を構築するという今日の全世界的共通目的に照らしても、極めて重要なものであると私は確信しています。

ところで、今のアクティビティの中で、ほとんど前に出ることができなかった方がいました。そういう方の場合、実はいくつもの人権が実現されていないことになります。この点が曖昧になってしまうと、その方はお気の毒だな、ということで終わってしまいます。例えば、原発事故による放射能汚染のために、自分の意に反して強制的に移住せざるを得なくなった方がたくさんいます。そうした方たちの場合、憲法が保障しているはずの居住の自由が侵害されているのです。職場を失われ、家族と離散させられ、仕事もできなくなった人たちは、働く権利、家庭を営む権利、生存の権利すら奪われているのです。

人権に関する知的理解が十分でないと、実際に起こっている人権問題が見えないことになります。見えなければ、問題として捉えることもできない訳ですから、その解決法など、考えることもできません。こういう意味で、繰返しになりますが、人権についてしっかり知る、知識を増やすだけではなく、人権に関連する知的理解を深めていくことが、是非とも必要なのです。

それからもう一つ申し上げます。いわゆる人権感覚と言われているものに関することです。人権感覚という言葉は、かなり広く使われるようになっていますが、それがどんなものであるかが十分に理解されているとは言えない状況があります。

人権感覚とは何か。これに関して、レジュメにも紹介しているように、私はかつて次のような定義じみたものを書きました。

「人権感覚とは、人権の価値やその重要性に鑑み、人権が擁護され、実現されている状態を感知して、これを望ましいものと感じ、反対に、これが侵害されている状態を感知して、それを許せないとするような、価値志向的な感覚である。」

ここにおける「価値志向的」という意味は、人間にとって極めて重要な価値である人権が守られることを肯定し、侵害されることを否定するという意味で、いずれの場合にも人権という価値が実現する方向を志向している感覚ということです。

人権感覚が健全に働くとき、自他の人権が尊重されていることの「妥当性」を肯定し、逆にそれが侵害されることの「問題性」を認識して、人権侵害を解決せずにはいられないとする人権意識が芽生えるはずだと考えるのです。

価値志向的な人権感覚が人権に関する知的認識と結びついて、問題状況を変えようとする人権意識や意欲・態度を生み出し、自分の人権と共に他者の人権を守るための実践行動を引き起こすことが期待できる訳ですね。

結局、人権教育や人権啓発という営みは、人権に関する知的理解をしっかりと深め、人権感覚を研ぎ澄ますことを通して、人権に関わる問題が起こることがないように予防し、不幸にして起こってしまった場合には、抜本的にその問題の解決を図るための、知識、技能、価値・態度を育成することを目的とする総合的な学習支援の営みである、と言えると思います。

国連の「人権教育のための国連 10 年」（1995 年～2004 年）を引き継ぐ「人権教育のための世界計画」が現在も進行中です。2015 年から 2019 年まで 5 年間にわたり、「世界計画」第三段階が実施されることが既に国連で決議され、現在、その内容の詰めを国連人権高等弁務官事務所が進めているところです。

私たちもこの人権教育・啓発という大切な仕事を一歩でも前進させ、充実させるために頑張ってまいりましょう。

（終了）